

* 天文機器資料館階下の除湿器交換

天文機器資料館は、観測が終了した自動光電子午環棟を有効利用して博物館にしている建物である。自動光電子午環の階下の空間は望遠鏡のピア、示準器のピア、この空間を囲む壁面などのコンクリートが黄色い分厚い断熱材で覆われており、さながら要塞を感じさせる(写真1)。子午儀、子午環のピアは大量の砂の中に立っており建物の振動が伝わらないようになっている。その砂に深い水抜き井戸があり、除湿器で除湿された水をこの深い井戸に排水している。この水抜き井戸の底にロダンの彫刻の「接吻」のレプリカが発見されたミステリーについては、天文月報2009年6月号に「自動光電子午環棟(PMC)のミステリー」という記事に書いた。



写真1 さながら要塞を思わせる階下

写真1の様子は、収蔵庫としてたくさんのものを持ち込む前の様子である。望遠鏡フロアの階下は、かなりの空間があり、天文機器資料館の収蔵物の収蔵庫として様々なものが収納されているので、除湿器を常時作動させている。最近湿度が下がらなくなり、湿度計が80%を示すようになった。この80%というのは、筆者の経験では電子式湿度計の上限値である。常時運転が正常に作動していた除湿器の表示湿度はほぼ46~47%を示していたので、除湿機能が失せたのだと思われた。そこで太陽塔望遠鏡の半地下室に本格的な固定

の大型除湿器が導入されて、不要になっている移動式の除湿器があるので、その有効利用のため、天文機器資料館で使用することを考えた。

天文機器資料館の階下は全く閉じた空間ではなく、かつてハクビシンが入り込み出られなくなり死んでいたこともあった。このハクビシンは自動光電子午環が稼働していたころ、スリット近くの木犀の枝から、開いたスリットの中に入り込み、隙間から階下に移動し出られなくなったものと思われた。写真2がハクビシンの死骸、写真3はその足跡である。



写真1 ハクビシンの死骸



写真2 ハクビシンの足跡

写真2のハクビシンの死骸は天文機器資料館の階下にあったもので、回りに排泄された糞がたくさん見える。写真3の足跡は自動光電子午環のピアに付いていたものである。

写真4の手前の除湿器が新しく持ち込んだもの、奥に写っているものが今まで使っていたものである。



写真4 交換した新旧の除湿器

除湿器の後ろから出ているホースが水抜き井戸の中に引き込んであり（写真 5）、排水している。



写真 5 水抜き井戸に排水しているホース

この除湿器を設置して 2 時間で 80%を示していた湿度は 76%に下がった。この階下の空間は収蔵庫として使っているの、完全ではないが、この閉じられた空間の湿度は 50%程度には保ちたい。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp